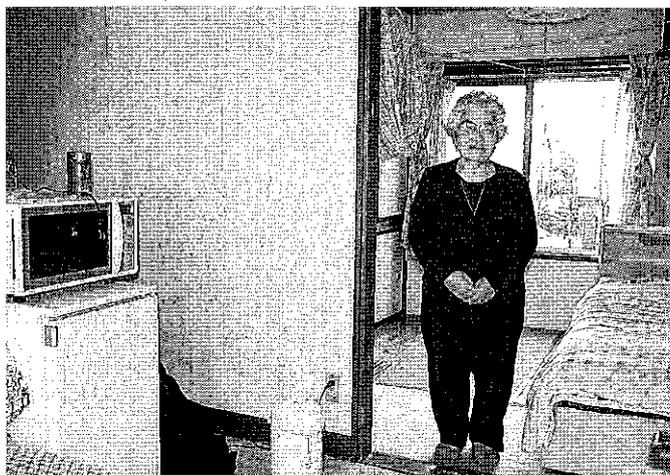


宿泊施設 道内に27カ所

小児がんなどの難病を持つ子を看病する家族向けに、病院の近くなどで部屋を安く提供する「北海道ファミリーハウス」(松本脩三理事長)の活動が、今年で10年目を迎える。道内の宿泊施設は27カ所が増え、最近では病院での出前演劇など、病気を与える取り組みも進んでいる。

ファミリーハウス運動は、ハンバーガーチェーンのマクドナルド社が74年、米国で作ったのが始まり。国内でも91年に難病の子供を

「ファミリーハウス」活動10年目



関アパートの部屋を提供している安藤妙子さん

持つ親たちが立ち上がり、全国に広がった。道内では北海道電力労働などが中心となり、00年に北海道ファミリーハウスを発足した。他県では組織として自前の宿泊施設を持っている場合が多いが、北海道ではアパートの家主が部屋を貸したり、ホテルが部屋の一角を割引で貸し出すケースが大半。行政の補助金などはないため、会員の会費で家財差額はオーナー側が負担している。

出前劇も 闘病の子供ら励ます

今札幌に21カ所▽函館に3カ所▽旭川、釧路、帯広に各1カ所。施設があり、50〜60組が泊まれる。アパートなら1泊1000〜2800円、ホカかないように心掛けて「と家族の心情を第一に考えることは忘れない。」

ファミリーハウスは昨年「子供たちの笑顔づくりをしよう」を合言葉に、子供に直接かかわる取り組みも始めた。昨年8月には札幌医科大学病院で人形劇「えりっこ」の上演。同10月には北大病院で劇団「風の子」による劇を上演した。

金田耕二・副理事長は「事前にチケットを作って子供たちに渡せば、子供たちは楽しみにして日々を過ごしてくる。病気を闘う子供たちが少しでも前向きになれることをしていきたい」と話す。

【木村光則】

札幌市白石区の安藤妙子さん(81)は、経営するアパートの空き部屋を10年間、提供している。「家族を看病する人々に部屋を貸してあげられることは私の生きがい」。道内はもろろん沖繩を含む全国各地や台湾など外国からも人が訪れる。

1泊2000円で、自宅を歩き来している場合は、宿泊していない日の料金は取らない。子供たちを看病する親たちの話し相手になったり、一緒に涙を流すこともあるが「自分から病気のことは聞